

第1回 第3採択地区調査研究委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年7月9日（金）15：00～16：30
- 2 会 場 大阪市教育センター 第2研修室
- 3 出席者
（委 員） 橋本委員、平澤委員、中西委員、京田委員、富山委員、平田委員

（事務局） 岡総括指導主事、竹山指導主事

4 議 題

- （1）今年度の調査研究の経緯について
- （2）調査研究の経過について
- （3）調査の観点の確認について
- （4）学校調査会報告
- （5）調査報告資料（案）について
- （6）事務連絡

5 議事録

【事務局】

ただいまより、第1回第3採択地区調査研究委員会をはじめます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

この地区調査研究委員会の進行をさせていただきます、指導部教育活動支援担当第3教育ブロック総括指導主事の岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、本日ご出席いただいております皆様をご紹介させていただきます。

大阪市PTA協議会、橋本 佳子 様。（よろしくお願いたします。）

住吉区担当教育次長、平澤 宏子 様。（平澤です。よろしくお願いたします。）

花乃井中学校校長、中西 正明 様。（中西でございます。よろしくお願いたします。）

難波中学校教諭、京田 将典 様。（京田です。よろしくお願いたします。）

そして、第3教育ブロック担当部長の富山と（宜しくお願いたします。）

同じく首席指導主事の平田（平田でございます。どうぞよろしくお願いたします。）が参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に本日の配付物についてご説明いたします。本日の次第の裏面をご覧ください。そちらに記載しておりますように11種類の資料をお配りしております。

- ・令和3年度使用教科用図書 調査の観点（第3採択地区版）
- ・令和3年度使用教科用図書 答申資料（第3採択地区）抜粋版
- ・令和3年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会調査集計結果抜粋版（第3採択地区）

- ・令和4年度使用教科用図書調査研究にかかる学校調査会調査結果

【歴史的分野】（第3採択地区）

- ・令和3年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会（代表的コメント一覧）抜粋版

【第3採択地区】

- ・令和4年度使用教科用図書調査研究にかかる「学校調査会」調査結果

【代表的コメント一覧】

- ・（案）新たに発行された教科用図書 調査報告資料（第3採択地区）
- ・《参考》令和4年度使用教科用図書選定資料（中学社会歴史的分野）定量的調査資料
- ・新たに検定合格した教科書の取り扱いについて
- ・「教科書展示会」のアンケート用紙
- ・教科書センター一覧

でございます。

また、「教科書展示会アンケート」については、各地区で一部となっており、真ん中に置いてございます。

会議資料とは別に、本市職員以外の方と校長先生と教員の皆様には、事務関係書類もお配りしておりますが、それは会議では使用いたしません。過不足はございませんでしょうか。

こちらの資料は、大阪府教育委員会設置の「大阪府教科用図書選定審議会」の答申に基づき作成された「令和4年度使用教科用図書選定資料」の中から、学習指導要領に示されている各教科の目標等を踏まえ、各種目の特性に応じた教科用図書の特色が明らかになるよう客観的な数値データ等のみを抜粋したものです。本日協議の参考に準備させていただきました。それでは、次第に沿って会議を進めてまいります。

次第にあります「2. 調査研究の経緯」につきまして、ご説明させていただきます。資料の「新たに検定合格した教科書の取り扱いについて」をご覧ください。

令和3年3月30日付け文部科学省通知「令和4年度使用教科書の採択事務処理について」に令和3年度においては、自由社の「新しい歴史教科書」について、「教科用図書検定規則に基づき、検定審査不合格の決定の通知に係る年度の翌年度に行われた再申請により、令和2年度に文部科学大臣の検定を経て、新たに発行されることとなったことから、無償措置法施行規則第6条第3号により採択替えを行うことも可能である。」及び「採択替えを行うか否かは、採択権者の判断によるべきものであること。その際、都道府県教育委員会において行う新たに発行されることとなった図書についての調査研究の結果のほか、令和2年度における採択の理由や検討の経緯及び内容等を踏まえて判断することも考えられること。」と示されておりました。

そのことから、新たに発行されることとなった「自由社」の社会「歴史的分野」の教科書に

ついて、採択替えを行うか否かを教育委員会の判断に資する調査報告資料を作成するために、「大阪市立義務教育諸学校使用教科書調査研究委員会要綱」に基づいて、「調査研究委員会」を設置いたしました。

調査研究委員の皆様には、「自由社」の新しい歴史の教科書の優れている点や、特に工夫・配慮を要する点を明確にさせていただきながら、昨年度に採択いただいた教科書と比べ、第3地区にふさわしい教科書かどうか等調査研究していただき、調査報告資料を作成いただくこととなります。

なお、昨年度は水都国際中学校の使用教科用図書についてもご審議いただきましたが、本年度につきましては、この委員会では取り扱わないこととされております。

次に、次第にあります「調査研究の経過」につきまして、ご説明させていただきます。5月31日より、学校調査会で調査研究を行い、調査員による調査は、6月25日に全て終了いたしました。お手元の資料にはその調査結果が記載されております。大勢の教員で調査研究してきたものでございます。また、「調査報告資料の案」は、昨年度の地区部会で決定した「調査の観点」の「重点化」について、その経緯や考え方についても触れ、社会科専門である地区調査研究委員の中西校長先生と京田先生に大変お忙しい中、作成いただきました。

本日はその調査の結果を報告し、その後、調査報告資料の作成に向けて検討いたします。「自由社」1者のみとなりますが、ご協議の程よろしく願いいたします。また、市内30か所の教科書センターにおいて「教科書展示会」が開催されています。その展示会にて、市民等からのアンケートを回収しております。7月1日現在のアンケート回収総数は319通となっております。アンケートは資料にありますように、こちらとなります。

また、市内30か所の教科書センター一覧も資料にございますので、ご覧ください。集まったアンケート用紙そのものは、ファイルに綴じておりますので、後ほどご覧ください。以上が、「調査研究の経過」についての説明です。

あわせて、本日の予定について、ご説明いたします。

本日は、学校調査会がおこなった調査の結果と調査報告資料（案）について報告を受け、それをもとに第3採択地区調査研究委員会として、調査報告資料の作成に向けてご協議いただくこととなります。また、本日は1種目1者ということで、自由社の教科書見本本と昨年度採択された東京書籍の教科書見本本をお机に置かせていただきますので、自由にご覧になっていただければと思います。なにぶん、限られた時間での協議となりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。ここまでで何か、ご質問等はございませんでしょうか。

それでは、次に調査の観点について確認いたします。資料「調査の観点」の1ページ、2ページをご覧ください。

教科用図書の調査及び研究にあたっての留意事項ですが、調査の基本態度として、

- (1) 「大阪市教育振興基本計画」等に示された基本的な目標に基づいて調査及び研究をすること。
- (2) 大阪市の教育施策との関連性に基づいて調査及び研究すること。

(3) 今日的な教育課題に基づいて調査及び研究をすること。

とございます。この基本態度を持って、今回の「自由社」の教科書については、公平性の観点から昨年度と同じ観点をもとに調査研究を進めてまいります。昨年度の第3地区では、重点化した「調査の観点」は、3ページにありますように、項目1の①②③④⑤の5つとなっております。昨年度、この5つを重点化した「調査の観点」といたしました経緯をご説明いたします。

まず、学力の側面から見た第3教育ブロックの特徴について考えました。当ブロックの地域性を踏まえた教科書採択をめざし、当ブロックにおける生徒の学力面での特徴を分析したうえで、採択にあたって重視すべき点を考えてまいりました。全国学力・学習状況調査の結果を経年的に分析すると、文章を理解したうえで、自分の考えを表現する力に課題があり、特に中学校は、言語能力の差が学力格差に現れ、二極化の傾向が見られます。

一方、当ブロックには、外国にルーツがある等、学習言語の習得に支援を要する児童生徒が在籍している場合も多くなっています。このことから、当ブロックの教科書採択については、大阪市教育振興基本計画の「2つの最重要目標」と「今日的な教育課題」を念頭に置き、

- ・言語活動が充実するもの
 - ・学習のめあてを振り返ることのできる学びを実現するもの
 - ・学習言語が不足している児童生徒にも理解できる絵、写真、動画を活用するもの
- そのような教科書が求められると考えました。

次に、第3教育ブロックの特徴を踏まえた採択方針の方向性について考えました。この地区の特徴としましては、ビジネス街、都心部、昔ながらの趣きのある街並み、ベイエリアなど多様な地区の特徴があります。

地区における評価の目的意識としましては、先ほどの地区の特徴を踏まえ、選定事務につきまして、客観的、合理的で社会的に見て納得性の高い事務が求められる地区であると考え、「調査の観点」に準拠すること、そして、「調査の観点」の重点化等の仕組みを十分踏まえること、学校現場の声を重視することで間接的に地域性を反映させることに目的意識をもって進めていくこととなりました。

これらの「方針の方向性」を踏まえ、当ブロックの教科書採択については、大阪市教育振興基本計画の「基本的な目標」について言及するとともに、1-1・2の「2つの最重要目標」に最重点を、1-3～5の「今日的な教育課題」に重点を置くことを念頭に、すべての教科について項目1の1～5を重点とすることに決定いたしました。調査の観点及び、重点化について何かご質問はございませんでしょうか。

それでは、次に「5. 学校調査会」の結果について報告いたします。「学校調査会 調査集計結果」をご覧ください。

学校調査会は、第3教育ブロック34校各校で調査を行いました。学校調査会は、調査の観点の項目、すなわち大阪市教育振興基本計画等との関連、内容の取扱い、その他の3つの項目ごとに、特に優れているとする観点と特に工夫・配慮を要するとする観点を、それぞれ2点以内で挙げることとなっております。この資料は34校の報告を集約したものでございまして、下から4行目の重点化した観定の合計や、その上の全観定の合計の数から発行者ごとの優位

性が分かります。2ページ目をご覧ください。

「自由社」については、第3地区の重点化した観点では特に優れている点は19ポイント、工夫配慮を要する点は23ポイント、全観点では、特に優れている点は64ポイント、工夫配慮を要する点は87ポイントとなりました。

合わせて昨年度の学校調査会の結果をご覧ください。第3地区で採択された「東京書籍」の教科書では、第3地区の重点化した観点では、特に優れている点は33ポイント、工夫配慮を要する点は2ポイント、全観点では、特に優れている点は108ポイント、工夫配慮を要する点は10ポイントとなっております。学校調査会の結果を見ますと東京書籍の発行者に優位性が見られました。

コメント一覧についても自由社と昨年度採択の東京書籍をご覧ください。コメント一覧の「項目」は「学校調査会 調査結果」の一番左にあります項目のことで、「項目1」は「1. 大阪市教育振興基本計画等との関連」「項目2」は「2. 内容の取扱い」「項目3」は「3. その他(外的要素・構成・配列・資料)」でございます。そのようにこの資料を見ていただければと思います。

続いて、「調査報告資料(案)」についてということで、こちらに「(案)新たに発行された教科用図書調査報告資料第3採択地区自由社」のものがああります。長いので、「調査報告資料(案)」と今後呼ばさせていただきます。

この素案は、本日の会議での調査・研究に資するため、「調査報告資料(案)」については、社会科を専門とされている中西校長先生と京田先生に事前にお忙しい中、作成いただきました。調査報告資料(案)については、事務局から作成いただいた調査研究委員の先生方に代わり説明をさせていただきます。

お手元にあります「調査報告資料(案)」と「調査の観点」をご準備していただきますようお願いいたします。また、先ほどご説明させていただきました「学校調査会集約結果」もご覧ください。さらに適宜、見本本もご覧ください。

昨年度と同様に重点化した観点を中心にご報告いたします。報告資料の中でも、そのことを反映している「総評」を中心にご説明いたします。それでは事務局より、竹山指導主事から説明いたします。

【事務局】

失礼いたします。1「自由社」の調査報告資料(案)について、ご説明いたします。報告書の「総評」の欄をご覧ください。

この発行者の「特に優れている観点」は、項目1の観点②、観点⑤といたしました。中でも、重点項目1の観点②において、特徴が見られます。

コラム人物クローズアップでは本居宣長、伊能忠敬、渋沢栄一などの人物や、「コラムもっと知りたい」では、エコロジー都市「江戸」や水泳ニッポン(東京五輪)などを紹介し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるように配慮されています。P.135 P.204 P.269 P.275等でございます。

「特に工夫・配慮を要する観点」は、項目1の観点①、観点③、観点④といたしました。中でも、「重点項目1の観点④」にも特徴がみられます。章や節の目標が記載されておらず、章の始まりのページに問いが一つ掲載されているだけで、単元のまとまりを意識したつくりとなっておりません。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ならびに論理的思考力・判断力、豊かな表現力等の育成が困難であると考えます。教科書全体、P.19 P.69 等でございます。

以上で、「調査報告資料（案）」の説明を終わります。ありがとうございました。

なお、事務局より令和4年度使用の自由社新しい歴史教科書について、一般社団法人、教科書協会より、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の作成は未定である、と連絡がありましたことを申し添えます。

中西校長先生、京田先生から特に何か説明の補足等ございますでしょうか。

【委員】

すみません、失礼します。正直なお話をさせていただきますが、この採択のお話をいただいた時に、昨年度選定された東京書籍の教科書で、もうすでに授業が始まっておりまして、現場ではそれを元に年間指導計画を作っております。

それから現在では、歴史を2年生の1年間で教えるというパターンがなくなっておりまして、私達が中学校時代はたいがい2年生で歴史を学んだのですが、今は1年生、2年生、そして3年生も含めまして、地理と歴史を学んでいくという体制になっております。ですので、この東京書籍の教科書で、言わば3年間の計画を作った上で、この4月からスタートしているわけです。

そうしますと、もし自由社の教科書が非常に良くて、ここで変えなければならないということになりますと、この計画をまた立て直さなくてはいけないというところと、それから現在この東京書籍で学んでいる生徒たちに対しての学び直しなど、そういう労力が非常に大変だと。このコロナ禍の中で、授業数も削減される中での、進路の部分に関してもなかなか大変だと。ここで、採択し直しかというそういう印象がございました。

それでもいい教科書であればというところで、私どもも時間の無い中教科書も読ませていただきましたし、いろんな意見も集めながらの報告書になっているかと思います。ですので、まず、ざっと一読をさせていただきますと、非常に内容が盛り沢山であるといえると思います。読み物についても、今までの教科書にはなかなか載っていなかった観点からの、史実や諸説の紹介等もございまして、盛り沢山だなと実感しました。

そして報告書にも書かせていただきましたが、主体的に学んでいけるのかというところでは疑問を感じます。言ってみれば、教科書1冊を子どもにどんと与えて、あとは自分らで頑張って勉強してねと投げた時に生徒たちが、この教科書1冊でこうだあだと言いながら勉強していけるのかと考えると、配慮・工夫が必要かなと感じます。

というのが、まず“問いかけが少ない”ということでございます。これは、中学生全体にいえることかもしれませんが、社会科、という教科はどちらかというと苦手だという生徒の多い中で、問いかけがない、あるいは問いかけが少ない教科書の中で自分たちだけで勉強していけ

るかという、非常に不安なものがございました。

なおかつ、QR コードですとか、インターネットへのリンクですとか、そういった紹介がほぼないという状況の中で、昨今の ICT に対応できる教科書なのだろうか、という批判もございましてこの報告書になっております。それぞれ審議をしていただきながら、最終決定をしていただけたらと思いますのでよろしくをお願いします。

【事務局】

ありがとうございました。それでは今のお話も受けながら自由社の方をまず見ていただきまして、内容的なことについては専門教科の調査研究員、中西校長先生、京田先生からお答えいただき、教科内容以外、採択の仕組み等につきましては事務局からお答えさせていただきます。少し時間をとらせていただきまして、ご質問等ありましたら、確認させていただきたいと思います。この間、先ほど申しましたファイルに綴じておりますアンケート等も、見てください。それではファイルをまわします。

この後の流れとしましては、昨年度採択され、今現在使っている東京書籍が、どういう経緯で決まったのかを説明させていただきまして、東京書籍と自由社の二つを、見比べていただきながら協議等に入っていこうと思っています。自由社に関しての質疑、質問等は、ございませんでしょうか。

そうしましたら、教科書2冊開けておられる方もたくさんおられるようですので、続いて、東京書籍の話をさせていただきながら、中身の協議に移らせていただきたいと思います。

(「はい。」の声あり)

ありがとうございます。そうしましたら続いて、昨年度の答申資料の内容と、今回の調査報告資料(案)から第3地区の調査研究委員会として、第3地区の教科書として採択替えを行う必要があるかどうか、優位性についても確認していきたいと思います。

昨年度の答申資料というの一番最初の資料にあります、ホッチキス止めになっておりまして、採択答申資料の抜粋版というところで1枚めくっていただきましたら、一番上に東京書籍と書かれております。

第3地区は、この東京書籍が採択されましたので、こちらと、今見ていただいております自由社の調査、報告資料(案)を見比べていただきながら、お話聞いていただければと思います。また、ご意見いただく前に、昨年度、東京書籍を推すことになった経緯についてご説明いたします。

東京書籍におきましては、他者と比較しても、他教科との関連やウェブページへのリンクが細かく示されていたり、道徳との関連性においても、その単元の内容を題材にした読み物資料にリンクがされております。

また、若手教員や経験が浅い教員にとっては、授業をどう進めていけばよいか、わかりやすくなっており、他者と比較しても優位性があるといういたしました。総評を見ますと、東京書籍の、特にすぐれている点が4点。特に工夫範囲を要する点が1点となっております。

一方、調査報告資料(案)の自由社ですが、特にすぐれている点が2点。特に工夫・配慮を要する点が3点となっております。それでは、これからこの調査報告資料(案)をたたき台としまして、ご審議をお願いいたしたいと存じます。どなたからでも結構ですので、ご意見ご質

問をお願いいたします。

【委員】

それでは、もう自分の意見しか言えないので、言わせていただきますが、私が一番引っかかっているといえますか、「あれ？」と一番思ったのがこの総評の3つ目のSDGsについての記述でございます。

自由社の教科書には、SDGsの言葉が一言も出てきません。もちろん索引にもものついていませんし、これが今の教科書でどうなのかと私自身が一番引っかかったところです。実は本校は総合の時間でSDGsの取組をしております、その17項目等について、子供たちで調べ学習をやっておりますが、それにリンクさせながら、社会科の地理の授業でもそうですし、歴史・公民の資料でもSDGsの取組を入れております。もうこれは国際的に、世界中が目指して取り組んでいる出来事の中でその記述が1つもないというのは、どうなのかなという気がしました。

そうしますと他の記述の中から、SDGsの項目に値するところが無いのかといえば、細かく1つずつ拾い上げていけば、それぞれの項目に関する内容が出てくると思います。ですが、やはり先ほど申しました通り、子どもたちが自分で、教科書を見ながら勉強していくとなると、その項目がSDGsにつながっていくのか、授業ですとか、教員が導いてあげない限りちょっと難しいのかな、というふうにも思いましたので、「総評の中にも入れてください。」というお話をさせていただきました。ですので、ここが私としては一番引っかかるところでございました。

【委員】

教科書に「問い」がかなり少ないなと思ったのが一番の感想です。例えば、元寇のモンゴル軍が襲来したというページが、自由社は80ページ、81ページですけども、こちらの方には「23番元寇」でこの下に単元のテーマとなる「鎌倉幕府はどのようにして元の襲来をはね返すことができたのだろうか」という問いが1つございます。そして、ページの右下の方に、「チャレンジ、元寇をはねつけることができたのに、鎌倉幕府の力が衰えたのはなぜか説明しよう。」と、見受けられる問いが、この2点しかございません。

左の下に吹き出しで、男の子がしゃべっていますが、こちらの方は、台風の関係だけでなく、「武士たちが必死で戦ったんだね」という言葉だけです。これだけだと問いにも何もなっておりません。こういう吹き出しでしゃべっているところはほとんどが、この子供たちの意見を書いているだけで生徒たちに問いかけているというような様子は、全然見受けられませんでした。

一方、東京書籍の方ですが、同じページで比較しますと76ページと77ページになります。単元のめあて、学習課題のところには、「モンゴルの襲来はどのようなもので、日本にどのような影響を与えたのでしょうか」という大きな問いかけがございます。右下の方には、「単元を振り返ってモンゴルの襲来が成功しなかった理由を本文から2つ抜きだしましょう」という簡単な問いと、「トライ」の方が少し発展的な課題で、「鎌倉時代後期の御家人と幕府との関係の変化を次の語句を使って説明しましょう。」右の方には、「みんなでチャレンジ」(1)(2)2つ問いがございますし、上の方には緑色で資料を読み取る問いかけもございます。

このように、各ページ、たくさん問いがございますので、生徒たちが主体的に学ぶときに、すぐ役に立つなと思えました。また、東京書籍が採択されたという理由の中に、若手教員・

経験の浅い先生が使いやすいことがございましたが、本当は教材研究の中で自分でこのような問いかけをしよう、ということそれぞれの先生方ができればいいのですが、なかなか採用1年目の先生だと難しいと思います。そんな先生に、自由社の教科書でこれで授業をしてくださいと言われたときに、どのような問いかけをして、どう授業を組み立てていけばいいのかわかるというのが、かなり難しいなっているのが、自分の意見でございます。

【事務局】

ありがとうございました。

他にご意見等ございませんでしょうか。

【委員】

京田先生のご意見と似たようなものなんですけれども、自由社の「チャレンジ」のところを見ますと、ある程度教科書の中から答えを探せるものが多いのかなという印象がありまして、一方、東京書籍の方は中身を読んだうえで理解して自分で考えるような余地が質問の中にあるのかなと。

という意味で見ますと、理解をして自分の言葉で表現する、というような、第3ブロックで、これから伸ばしていかなければならない力を伸ばすには、こちらのほうがより適しているのではないのかなというふうに感じたところです。以上です。

【委員】

娘が中学3年生で、東京書籍ではないんですけれども、今日ちょっと見てきましたら、やっぱり各項目のところに問いかけがありまして、改めて教科書を見て、こういうふうに乗ってるんやと思ったんです。今、自由社を見ましたらそういうふうな問いかけではなくてやっぱり各者とちょっと違って、これでは難しいかなと思いました。あとこちらの総評にも載っていましたが写真とか資料がかなりぼやけているというのも気になりました。

【委員】

先ほど中西校長先生から、子どもたちが主体的に学習できるような観点についてのお話がありましたが、思考して自分の考えを構築していくということが、平澤区長もおっしゃったように、第3ブロックの課題の1つでもあります。東京書籍の例えば72ページの鎌倉時代の文化と宗教のところ、「見方・考え方・比較」というところがありますよね。「時代を比べて違いを読み取りましょう。」すなわち、思考をするために「比較する」という大事な方法を、さりげなく教科書の中に入れながら、子どもたちが思考するための手がかりを示している、という点で主体的な学びをより進めやすくしているところは、東京書籍の優位性の1つだと考えました。

【委員】

先ほど中西校長先生がおっしゃっていたSDGsって大事だと思うんです。ほかの教科書でも載っているのに、社会科の歴史で載っていないのは問題だと思うんです。大切なところだと思います。

【委員】

こういう側面もあります。源頼朝のところなんですけれども東京書籍では68ページ自由社では74ページになりますが、東京書籍の方はですね、この頼朝の像、木造であります、これを

載せてあります。自由社の方は肖像画を載せてありますね。もうみなさんご存じのように自由社が載せているこの肖像画は、実は源頼朝ではないのではないか、という説が有力になってきている現在でございます。それから、東京書籍の方ですね。68 ページの木造の写真の下に、①②（緑色）とあります。鎌倉幕府の成立時期について諸説ありとなっておりますが、私たちが中学校のころは、「いい国作ろう鎌倉幕府（1192 年）」というふうに覚えたわけですが、これは頼朝が征夷大將軍に任命された年であって、実はその前に、全国に守護・地頭が置かれた、1185 年の時点ですでに幕府ができていた、というふうに見る説が、現在有力になってきております。

そういうところも、東京書籍の方は載せてるんですね。ただ、自由社の方は、そういう記述がないということもございまして、やはり、歴史でございますので最新の内容ということから、ここだけではないのかもしれないですが、もうちょっと配慮が必要なのかなというふうにも思います。

【委員】

失礼します。私、以前は社会の教員でして、内容うんぬんじゃなくて学習指導要領の中でも、諸外国との関わりとか、国際協調とかグローバルな視点であるとかいうことを謳われておりまして、日本の歴史の中においてザビエルとペリーが来たとき、というのは非常に日本の歴史が大きく動くところなので、そのザビエルが来る前にヨーロッパの歴史はどれぐらい取り扱われるか。もうこれ単純にページ数の話ですけれども、自由社の方は、106 ページから 109 ページまでの 4 ページです。一方、東京書籍の方は 100 ページから 105 ページですね。つまり、6 ページあります。

また、ペリーが来た時は、自由社の方は、150 ページから 157 ページ。つまり、8 ページです。東京書籍の方は 150 ページから 161 ページまでの 12 ページを使って、どうしてペリーが日本に来たのか、どうしてザビエルが日本に来たのかというその背景を、ヨーロッパの歴史と日本の歴史を関連させながら、より詳しく東京書籍の方が、記述されているというところがございます。以上でございます。

【事務局】

ありがとうございました。他にご意見、ご質問等ございませんでしょうか。ありませんか。もうある程度皆様に今ご発言いただきましたので、これで審議の取りまとめの方に入って参りたいと存じますがよろしいでしょうか。

皆様のご意見を取りまとめますと、自由社よりも、東京書籍の方に優位性があるという内容で、調査報告、資料をとりまとめていくという方向性で、一致したと、考えますが、それでご異議ありませんでしょうか。（ありません。）

はい。ありがとうございます。ご異議がないようですので、そのように取りまとめたいと存じます。

次に、ご意見も踏まえた資料の修正につきましては、本日の協議の内容を踏まえまして、事務局で取りまとめ、調査報告資料を作成して参ります。作成した調査報告資料については、どのようにさせていただきますでしょうか。

【委員】

大きな修正の方もなかったようですし、もし皆様の同意をこの場でいただけるのでありまして事務局で作成いたしましたものをわたくしの方で責任をもって確認させていただきたいなと思っておりますがいかがでしょうか。

【委員】

ただ今のいただいたご意見でよろしいかと私は考えますが皆様いかがでしょうか。
(それではお願いします。)

【事務局】

ありがとうございます。それでは、富山委員により、事務局で作ったものを最終確認とさせていただきます。長時間にわたる協議、ありがとうございます。これまでの協議結果につきましては、8月10日火曜日の、教育委員会会議に事務局からまとめて報告をさせていただくことになっております。報告させていただく内容は

1つ目として、確定いただきました「調査報告資料」について

2つ目として、「調査報告資料」から読み取れる、採択替えを行うか否かの優位性についてを、報告させていただきますことをお知りおきください。

続いて調査研究委員会要綱についてでございます。調査研究委員の皆様の任期につきましては、第5条に「委員の任期は、教育委員会より調査依頼を受けた日から教科書の採択替えを行うか否かを決議するまでとする」とあります。今後、8月初旬に予定されている教育委員会会議において、本日ご確認いただきました内容を報告し、8月末の教育委員会会議において「採択替えを行うか否かを決議」される予定をしています。

また、委員会要綱第4条—4には、「委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする」とありますので、合わせてよろしく願いいたします。以上でございます。

これまでのところ何かございませんでしょうか。そうしましたら最後に事務連絡に移ります。まず1点目、提出物についての連絡でございます。

先日、調査研究員の本市職員以外の橋本様には、口座振替申出書、お通帳の写し、マイナンバー提供の用紙、交通費経路について、交通費請求明細書の提出をお願いしておりました。お手持ちでない場合は、本日配布物に関係書類をお配りさせていただいておりますので、所定の事柄をご記入いただきご提出ください。終了後集めに回らせていただきます。校長先生と先生方も、本日口座振替申出書と通帳の写し、交通費経路について、あと交通費請求明細書をご提出ください。本日の配布物に関係書類をお配りさせていただいておりますので、所定の事柄をご記入いただき、ご提出ください。以上、事務的にお手を煩わせることもあると思いますがご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。事務局への連絡、第3教育ブロック電話番号は、6208-9036、竹山までご連絡いただいたらと思います。

また最後に、本日準備させていただきました資料につきましては、お名前のシールを貼ってある封筒に、そのままお入れおきくださいますようお願いいたします。

以上ですべての予定が終わりました。これを持ちまして、第3採択地区調査研究委員会を終了いたします。長時間にわたりご参加いただき、誠にありがとうございました。

(一同：ありがとうございます。)